

銀漢亭日録



伊藤伊那男

2月17日(月)

▼七時半までぐっすりと寝る。店、「演劇人句会」七人。敦子さん、大分旅行の帰路、焼酎一本提げて。文子、清人一派も。

18日(火)

▼庭に物置二つ設置。一部、私の荷も入る予定。本棚、衣装棚の設定などカタログと睨めっこ。店、北村監督、井ノ口さん。最高裁判所判事だった弁護士的那須弘平さん。新橋のみえ子さん、大野田君と、井月つなりの伊那の方々。宮澤、仕事仲間四人。(岩田さん他) 敦子さんの誕生祝いを宗一郎、小石さん等。あとこのメンバーと「大金星」で二次会。

19日(水)

▼寒い日が続く。正岡明さん監修の『樹霊』の惠贈を受く。「雛句会」八人。「三水会」八人。「はてな句会」あと二人など。

20日(木)

▼「酒場放浪記」の吉田類さん、「全国を飛び歩いていて東京にすることが少なく、久々にこちらに来たので伊那男さんに挨拶したくて」と。角川「東京ウォーカー」の秋吉編集長と。「銀漢句会」あと二十人。出張で寄った凌雲君も二十分程で句を出して大阪へ帰る。その性根良し!

21日(金)

▼発行所「葛句会」終って五人。村田重子さん、「古典文学講座」の加藤美美子先生を囲んで八名。

22日(土)

▼「纏句会」。十五人のフルメンバー揃う。焼蛤、鱈塩焼、子持烏賊煮など。酒は山形の「ばくれん」。あと握り。題の鱻など。あと渋谷を二軒程歩く。

24日(月)

▼大野田、いづみ、展枝さん、「井月忌の集い」の打ち合わせ。客少なく、硯児さんに毛筆の持ち方など教わる。二十三時半には帰宅。

25日(火)

▼昼迄、原稿書く。高井戸の家を見に行く。次女好みの間取りに改装中。雪の影響で工事や遅れ気味の由。区役所出張所で転居届の手続き。「萩句会」の選句に行くと引越祝いとて高級ボールペンを戴く。店閑散。

26日(水)

▼「早蕨句会」凜子さん以下十一名が句会あと店を訪ねてくれる。飯田眞理子さん週末台湾。頼んでおいたからすみ、沢山到来。

28日(金)

▼十三時半、角川・石井隆司、打田翼さん、発行所にて新刊の打ち合わせ。店、小野寺清人さんの弟、和人さん上京とて気仙沼でお世話になった方々が集まる。和人さんから地酒の銘酒三本。兄上の信一さんから仙台「利久」の牛タン、食べきれぬ程の量。清人さんから牡蠣、山ほどと、三兄弟の結束の凄さ。三十名近く参集。前の会社で一緒だった若菜さん、阿部さん。若菜さんとは野村證券、オリックス、前の会社と三社一緒という因縁。「川」祝賀会あととて「門」鈴木節子、「沖」能村研三、「四葩」村松多美、各主宰、及び「俳句」鈴木編集長が寄ってくれる。節子さんお元氣なのは嬉しい! 「日録、楽しくて真つ先に読んでいるわよ。今日、来たことちゃんと書いてね」と。

3月2日(日)

▼「春耕同人句会」二ヶ月振り。昨日より風邪気味にて親睦会は欠席して帰宅。家族で食事。春雨、豚汁など作る。早々に寝る。

3日(月)

▼二月の月次表。営業日十七日しかなかった。「銀漢」四月号の原稿終了。皆川文弘さん、音楽に詳しいが小澤征爾の好きな成城の蕎麦屋を教えてください。「かさ、ぎ俳句勉強会」終わって十一人店。細見綾子、二回目と。

4日(火)

▼雨も降るし客もなし。閉めようとしたところで「俳人協会総会」あとの鈴木節子、鳥居真里子姉妹。「門」同人句会を二階発行所で開きたいとの話があり、その下見を兼ねて。

5日(水)

▼本棚の組み立てなど。雨。オリックス時代の上司より電話あり、「伊藤伊那男は貴君であったか?三年前から俳句を始めた。一度店を訪ねたい」と。実に二十五年振りのことである。「ささらぎ句会」あと七人。「宙句会」あと七人。帰路、小田急線人身事故で不通。

6日(木)

▼「十六夜句会」あと八人。昼間、中野智子さん、小女子の佃煮沢山(山椒風味、生姜風味)届けてくれる。昨年も戴いた。神戸の友人が毎年煮ると。二月二十八日が解禁で例年より大きいと。

7日(金)

▼「銀漢」四月号の校正。午後、雪がちらつく。店「大倉句会」あと十人。

8日(土)

▼十時、運営委員会。昼、久々「いもや」の海老天定食。十三時、「銀漢本部句会」五十名弱。あと「庄屋」にて親睦会。

9日(日)

▼正午、アルカディア市ヶ谷。第一回「井月忌の集い」。続々と参加者来て、百五十の椅子では足らず、結局、二百八名に。伊那市長も思わぬ人出に大喜び。

10日(月)

句は百七十三名が出句。映画、連句、句会とめりはりのある展開。句会一切を「銀漢」が取り仕切る。宴会では新橋芸妓衆の踊りもあり盛会。あと調子に乗って三軒程飲み歩く。ああ、また……。

11日(火)

▼二日酔いながら午前中いっぱい「平成俳壇」の選句。仕上げと発送。今日が締め切り日。店、新潟日報の大日方氏、信濃毎日新聞の五十嵐さん。宗一郎、近恵さん……でも閑散。三月の前半ずつと閑散。

12日(水)

▼「火の会」十一人。三年前のこの日、店に避難していた菊田一平さんは、情報ないまま、気仙沼大島の家を流されていた。今日は鎮魂のためとて欠席。湯豆腐、からすみなどを出す。

13日(木)

▼池田のりを、福井義雄、うさぎ、かばす、大野田、徳永さんなど。カウンターだけが賑わう。堀切、文子来たので二十二時に店を閉めて「ふくの鳥」へ。珍しく0時位に帰宅。

14日(金)

▼飯田子貢さん「還暦誕生日の会」十一人。てる緒さんの、ばら寿司、ミートローフ、悦子さんのドイツパンなど。シャンパンは眞理子さん二本。(還暦の試行錯誤も春愉し) (魚は水に妻の陰より還暦が)

15日(土)

▼発行所「葛句会」あと五人。堀切克洋君一時帰国で「超結社の集い」ホワイトデーとあつて「白」「デ」の題三句。二十二人集合。広渡敬雄、鈴木忍(「俳句」編集長)、青木誠一郎(元・角川学芸出版社長)さんなどが登山の打ち合わせとて。鈴木さん年末の「煤迷吟行会」取材したいと。